

平成 30 年度 事業報告



社会福祉法人
あじさいの家

平成 30 年度事業報告 目次

<p>目次</p> <p>1、あじさいの家 基本理念 1</p> <p style="padding-left: 20px;">1) 目的 1</p> <p style="padding-left: 20px;">2) 運営方針 1</p> <p style="padding-left: 20px;">3) 重点項目 1</p> <p>2、日課 1</p> <p>3、運営組織図及び担当 2</p> <p>4、利用者及び職員状況一覧 3.4</p> <p>5、年間行事報告一覧 5.6</p> <p>6、業務報告及び活動報告 7</p> <p style="padding-left: 20px;">◎運営 7</p> <p style="padding-left: 20px;">◎職員会議 7</p> <p>〈総務部〉</p> <p style="padding-left: 20px;">◎広報 7</p> <p style="padding-left: 20px;">◎施設管理 7</p> <p style="padding-left: 20px;">◎防災管理 7</p> <p style="padding-left: 20px;">◎車両管理 8</p> <p>〈支援部〉</p> <p style="padding-left: 20px;">◎ケース会議 8</p> <p style="padding-left: 20px;">◎支援計画 8</p> <p style="padding-left: 20px;">◎摂食 8</p>	<p>◎行事 9</p> <p>◎交流 9</p> <p>◎実習 9</p> <p>◎安全・防災 9</p> <p>◎医務・健康 10</p> <p>◎研修 10</p> <p>【生活介護】 11</p> <p>◎活動 11</p> <p style="padding-left: 20px;">○ミーティング 11</p> <p style="padding-left: 20px;">○訓練 11</p> <p style="padding-left: 20px;">○創作 11</p> <p style="padding-left: 20px;">○音楽 12</p> <p style="padding-left: 20px;">○身体 12</p> <p style="padding-left: 20px;">○作業 12</p> <p style="padding-left: 20px;">○人形劇 12</p> <p style="padding-left: 20px;">○お楽しみレク 13</p> <p style="padding-left: 20px;">○個別外出 13</p> <p>【日中一時支援】 13</p> <p>〈事務部〉</p> <p style="padding-left: 20px;">◎庶務 14</p> <p style="padding-left: 20px;">◎経理 14</p> <p>☆全体を通して 14</p>
---	---

1、あじさいの家 基本理念

1) 目的

障がいの程度にかかわらず、一人ひとりが日々充実して過ごし、生活の幅を広げながら地域生活を送ることができるよう支援することを目的とする。

2) 運営方針

- ・日常生活において、生きがいを持って豊かに暮らすことができるように支援する。
- ・安全で健康的な生活を送ることができるよう支援する。
- ・一人ひとりの持つ力が発揮できるよう支援する。

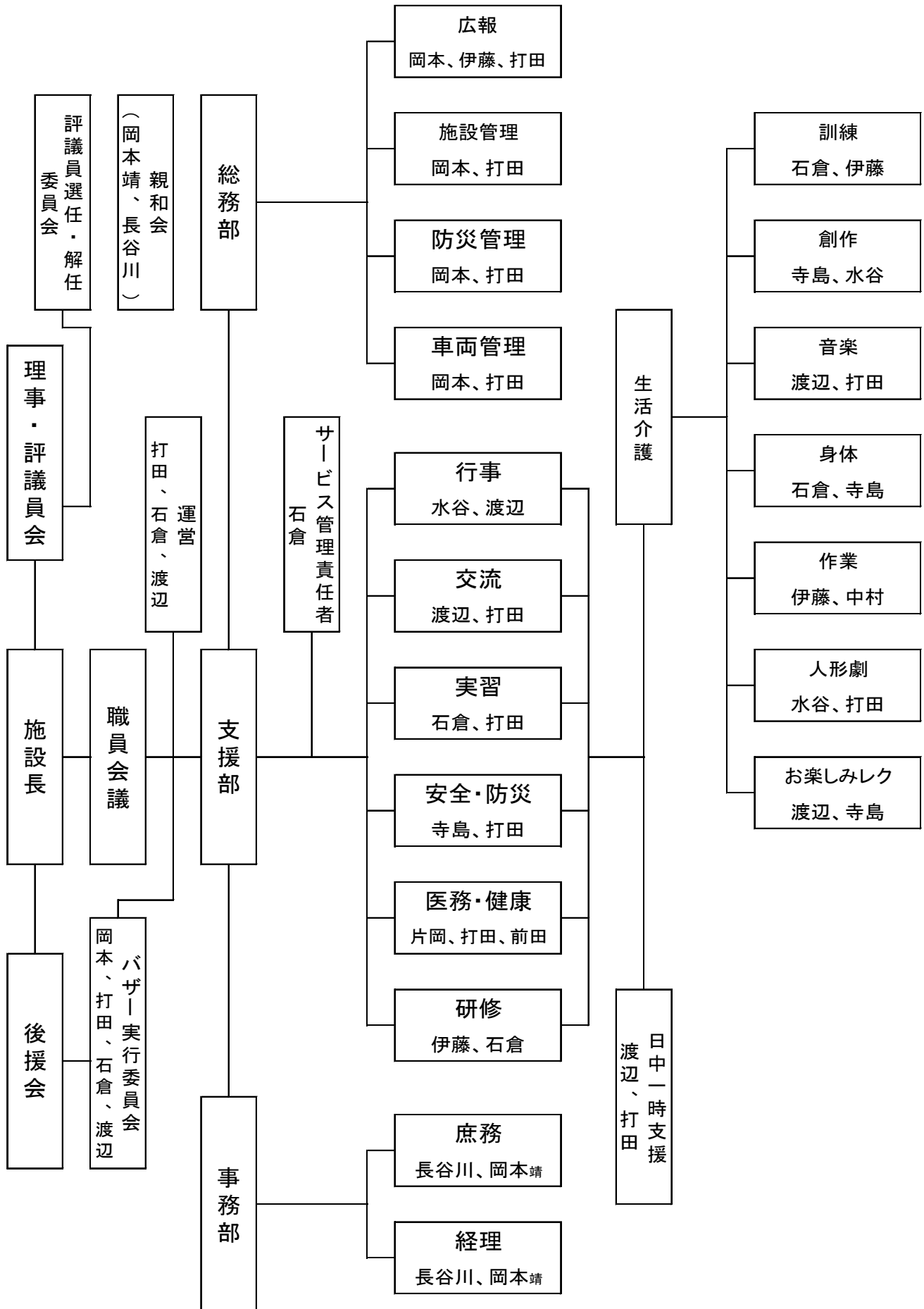
3) 重点項目

- ・一人ひとりの個性を尊重し、自己表現できる場や機会を設定する。
- ・一人ひとりの障がいの特性を的確に把握し、体調の変化には絶えず留意する。
- ・地域とのかかわりを大切にし、社会資源を有効に使ったり、地域に積極的に出かけて行ったり、いろいろな体験をすることで生活の幅を広げる。
- ・居宅生活が安心して送れるよう支援する。

2、日課

8:30	職員打ち合わせ	14:00	午後の活動
8:40	送迎及び準備	15:15	片付け 帰宅準備
9:30	活動準備	15:45	帰りの会
10:00	朝の会	16:00	帰宅（送迎）
10:30	午前の活動	16:00	記録（清掃）
11:40	昼食準備	16:30	会議（活動準備）
12:00	昼食 休憩	17:30	帰宅

3、運営組織図及び担当



4、利用者及び職員概況一覧

1、利用者の状況

平成31年3月末現在

(1) 通所状況

利用者定員 20名
利用者実数 20名

(2) 入退所状況

平成30年度新規利用者 男性 0名 女性 0名
平成30年度末退所者 男性 0名 女性 1名

(3) 曜日別利用者数

曜日	月	火	水	木	金	1日平均	昨年度
男	12	12	11	13	13	12.2人	12.8人
女	3	2	2	4	2	2.6人	3.6人
計	15	14	13	17	15	14.8人	16.4人

(4) 通所市町

市町	いなべ市	東員町	桑名市	四日市市	菰野町	計
男	8	3	3	1	1	16
女	2	0	0	2	0	4
計	10	3	3	3	1	20

(5) 年齢別在所者数

年齢	18～19	20～29	30～39	40～49	50～	計	平均年齢
男	0	7	6	1	2	16	34.6歳
女	0	0	3	1	0	4	34.7歳
計	0	7	9	2	2	20	35.2歳

(6) 施設在所者数

平均在席年数 10.3年

在所年数	1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10年以上	計
男	0	0	0	3	7	6	16
女	0	0	0	1	1	2	4
計	0	0	0	4	8	8	20

(7) 障害状況(身体障害者手帳により重複あり)

障害状況	男	女	計
脳性まひ	3		3
運動機能障害	5		5
四肢機能障害	1	1	2
四肢体幹機能障害	4		4
四肢機能全廃	1		1
体幹機能障害		2	2
上肢機能障害		1	1
移動障害		1	1
心臓機能障害	1		1
言語機能障害		1	1
てんかん	2		2
知的障害	2		2
器質性精神障害	1		1

(8) 障害手帳保有状況

	1種		2種	計
	1級	2級		
男	13	3	0	16
女	4	0	0	4
計	17	3	0	20

(9) 障害程度(療育手帳判定による)

	A 最重度	A 重度	A1	A2	計
男	7	4	1	2	14
女	1	2	0	0	3
計	8	6	1	2	17

(10) 障害支援区分

	区分1~4	区分 5	区分 6	0
男	0	1	15	
女	0	0	4	
計	0	1	19	

(11) 日常生活状況

- ・ 移動 ※ 自力歩行、自助具を使用される方は、車椅子も併用している。

	車椅子使用	自力歩行	補助具移動	半介助	全介助
男	16	1	1	2	14
女	4	0	0	0	4
計	20	1	1	2	18

- ・ 排泄

	自立	見守り	全介助
男	0	2	14
女	0	0	4
計	0	2	18

- ・ 食事

	自立	見守り	半介助	全介助
男	0	2	1	13
女	0	0	3	1
計	0	2	4	14

- ・ 食事形態 ※ 口からの摂取と経管栄養の併用有り

	普通食(一口)	刻み	ペースト(重複)	経管(胃瘻)	経管(鼻腔)
男	3	0	13(5)	3	1
女	3	0	1(1)	1	0
計	6	0	14(6)	4	1

- ・ 医療的ケア状況

	口腔内吸引	気・切吸引	胃瘻	鼻腔	導尿
男	6	0	3	1	1
女	1	0	1	0	1
計	7	0	4	1	2

2. 職員の状況

(1) 就退職状況

平成30年度新規採用者 男性 1名(パート運転士) 女性 2名(パート生活支援員)
 平成30年度内退職者 男性 1名(パート運転士) 女性 1名
 雇用形態変更 正規支援員⇒パート支援員 女性 1名

(2) 職員状況

職名	正規職員		パート職員		業務委託職員		計
	男	女	男	女	男	女	
施設長	1						1
サビ管		1					1
支援員	1	4	1	9			15
看護師		1		1			2
事務員				2			2
調理員				2			2
運転士			1		2		3
計	2	6	2	14	2		26

※支援員の常勤換算人数 10.5人

5、年間行事報告一覧

	会議		施設内行事	対外行事・交流
	法人関係	施設関係		
4月	辞令交付(2)	職員会議(11)	なばなの里 イルミネーション見学(20)	マスの放流(4)
5月	あじさいの家総会(19) 第1回バザー実行委員会 (19) 法人監査(22) 法人理事会(29)	職員会議(17) ケース会議(17)	ハーモニカ演奏(22)	人形劇公演(3)大安イオン yyフラ鑑賞(27) 川越町あいあいホール
6月	評議員会(13) 第2回バザー実行委員会(9)	職員会議(19) ケース会議(19)	誕生会(14)	人形劇公演(2)フレンテ祭り 人形劇公演(10)カリヨンの郷 じゃが芋ほり(19)
7月	第3回バザー実行委員会(7)	職員会議(24)	七夕会(7) 誕生会(23)	第23回あじさいの家 支援バザー(15)
8月		職員会議(22)		『響』オペラコンサート(3) 松尾孝臣さんコンサート(6) ジュニアアンサンブル(24)
9月		職員会議(12) ケース会議(12)	宿泊体験(6,7)第1回目 誕生会(11) 宿泊体験(27,28)第2回目	人形劇『アラビアンナイト』鑑賞 (16)亀山文化センター 人形劇公演(15) 多度すこやかセンター
10月	法人理事会(25)	職員会議(17)		人形劇公演(あじさいの家にて) (16, 19)きらら学園交流 (18)山郷保育園交流 人形劇公演(24)あがた保育園 いなべ市市民感謝祭(20) スポーツ交流会(27)さくらホール
11月	評議員会(8)	職員会議(16)	芋ほり(7) 誕生会(8)	ナイスハート(17)大安町 人形劇公演(25) 員弁老人福祉センター
12月	第4回バザー実行委員会(9)	職員会議(21)	誕生会(11) クリスマス会(25) お楽しみ会(27)	ヘルマンハーブコンサート(8) あじさいの家餅つき(9) 人形劇公演(17)三里保育園
1月		職員会議(22) ケース会議(22)	誕生会(29)	
2月		職員会議(14)	節分(1) 初詣(12)	人形劇公演(24)地域交流会 大安イオンにて
3月	法人理事会(11) 評議員会(26)	職員会議(12,29)	ハーモニカ演奏会(20) 誕生会(25)	正和中学校音楽会(16) 東員町福祉センター

	医務・健康	安全・防災	研修	実習
4月	体重測定(13～)	安全点検(12)	古川PTの訓練会(13)	
5月	体重測定(14～) 嘱託医による検診(9)	安全点検(10)		員弁中職場体験(16～18) ユマニテク実習(16～18) 北勢中職場体験(22～24) きらら学園実習(高3) (29～6/1)
6月	体重測定(11～)	安全点検(14)		
7月	体重測定(10～)	安全点検(5)	きらら学園研修会(26) 三重子ども診療発達 療育センター 第1回小児整形・児童精神 合同研修会(27)	
8月	体重測定(6～)	安全点検(2)	飯田人形劇フェスティバル(4, 5) 多田T訓練研修会(6) 静的弛緩誘導法研修 (1, 10, 20, 28) e-ケアネットそらいん研修会(19)	教職免許取得のための実習 皇学館大生1名(6～10)
9月	体重測定(10～) 健康診断	安全点検(6)	いたみフォーラム(17)	教職免許取得のための実習 皇学館大生1名(10～14)
10月	体重測定(9～)	安全点検(4)		社会福祉法人よつば会 職員実習研修(4, 11, 25) いなべ市新人職員研修 (23, 24)
11月	体重測定(12～) インフルエンザ予防注射(22)	安全点検(1) 避難訓練(9)	古川PTの訓練会(27)	
12月	体重測定(10～)	安全点検(13)	医療的ケアを要する重症児・ 者の地域ネットワーク 連携研修会(23) 多田先生訓練研修(26)	
1月	体重測定(15～)	安全点検(17)		
2月	体重測定(12～)	安全点検(7)	いなべ市連絡協議会 合同研修会(1)	
3月	体重測定(11～)	避難訓練(5) 安全点検(7)	多田先生訓練研修(13)	

6、業務報告及び活動報告

◎運営

日々の活動や行事、施設内外の支援や運営に係る内容において、円滑に進むよう管理、調整を行ってきた。時間にゆとりを持ち、定期的に開催することが望ましいが、職員会議の前に必然的に話し合う時間を持つことがほとんどであった。そのため、職員会議の内容についての調整が、主になることが多かった。また、活動の時間に開催することが多く、職員やなかまの動きに支障をきたすこともあった。

来年度からはショートステイ事業が開始される予定であり、職員の勤務時間の調整等も加わることとなり、なお一層会議をもつことが難しくなると思われる。

今後は運営の係りの在り方を含め進め方を見直し、支援が円滑で正確に機能するように、管理・調整に努めていきたい。

◎職員会議

昨年に引き続き、今年度も保護者の協力のもと月に一回定期的に行うことができた。定期的に行うことにより、その月の行事予定の確認、なかまの様子や体調等の共通理解、意見交換が新鮮な形で出来、職員同士の協力体制が深まる時間となった。課題としては、出来る限り全職員が参加できるように考慮する必要がある。

今後も定期的な開催と、必要に応じた臨時会議を行っていきたい。

〈総務部〉

◎広報

今年度も広報『あじさい』や、家族との様々な情報連絡発信を行う『かわらばん』の発刊、室内掲示板、屋外掲示板の作成を行った。施設内掲示板には四季折々に普段のなかまの活動の様子などを中心に掲示した。屋外掲示板には活動の様子に加え、支援バザーのお知らせやスタッフ募集などの掲示も行った。たくさんの写真を掲載し、写真に吹き出しやイラストを描くなどの工夫を凝らし、見てもらう方々に楽しんでもらえる内容にすることができたと思う。

来年度は支援バザーの日にちが変わる初めての年なので、広く知り渡るよう広報を活用していきたい。

◎施設管理

月1回の安全点検は、基本的には月初めの実施が基本であるが、行事の関係もあり無理な時もあった。しかし、実施日が遅れることがあっても定期的に行えた。

今年度は大事には至らなかったが、台風によって屋根の一部が破損した。市の方と協議の上、保険を使い修理した。また、昨年度にも挙がっていた特殊浴槽室の窓の開閉の不具合については、短期入所事業を開始するための工事時に合わせて改善してもらった。しかし、事務所の床の不具合については改善されておらず、今後も市と相談しながら改善に向けて努力していく。

◎防災管理

今年度も火災報知機の年2回の法定点検（業者委託）と、避難訓練を2回実施した。今年度は第2回目の避難訓練時に、消防署に消火器訓練を要請し実施した。

また、毎年行われているいなべ市自立支援協議会主催の防災セミナーは、今年度も市民感謝祭で開催され、職員の参加はできなかった。

来年度は、短期入所事業も始まる予定であるので、宿泊時における避難や、スプリングラーの管理にも注意していきたい。行政や地域とのつながりを構築していくことや、職員の防災に対するスキルアップを図ることが益々大切になってくると考える。

◎車両管理

今年度は事故も無く安全に車両を運行できたことは何よりであった。しかし、車両の故障が時々あり、送迎の運行に支障が出たこともあった。車検は定期的に必ず行っているが、日ごろのメンテナンスが大切であると感じた。特に、オイル交換時期や消耗品（タイヤ等）については、運転したものが走行距離を注意していないと気が付かないことが多い。運転に携わる職員一人ひとりの安全意識を高めていくことが必要であり、車両を大切に使用し、今後も安全な運行に努めたい。

〈支援部〉

◎ケース会議

今年度は職員会議の後半に時間をとりケース会議を実施した。しかし、年度当初の計画通りにはいかず、全員を取り上げることが出来なかった。又、急遽話し合わなければならない事案については、朝の打ち合わせ等を利用し、確認することもあった。

時間の確保、共通理解の方法については、検討及び工夫が必要である。

現在のところ新しいなかまが増える予定はないが、それゆえに在籍しているなかまへの関わり方などについて、職員全員が深く考える場となるように活用したい。

◎支援計画

なかまや保護者のニーズ、またケース会議などで出された問題点や、目標などを踏まえ計画を立てた。

支援目標や重点目標が大きくかわることはほとんどないが、日々の関わり方や具体的内容については、詳細なものとなるように心掛けた。

車椅子のベルト、ヘッドギア、手袋など安全を確保するためではあるが、拘束と判断されそうな内容についての同意書の作成をする予定であったが、一人を除いて実施することが出来なかったので、来年度の課題としたい。

来年度は同意書も含め、なかまに関わるすべての職員が、支援目標を確認しやすい工夫をしていきたい。

◎摂食

楽しい食事の時間が苦痛にならないように、なかまと職員のお互いが安楽なポジションで過ごせるように対応してきた。

食事の摂取量が少ない、または摂取困難の場合は職員間で相談をし、なかまが負担

に感じる事がなく食事が摂れる経管栄養に切りかえるなどの対応をした。

今後もなかまの体調を把握し、なかまと職員がコミュニケーションをとりながら安全で楽しい時間となるように取り組んでいきたい。

今年度は摂食に関する研修が持てなかったが、今後は事故がないように職員のスキルアップに繋がる研修を持ちたいと思う。

◎行事

- ・誕生会 ・イルミネーション見学 ・お花見 ・七夕会 ・宿泊体験
- ・クリスマス会 ・書初め ・初詣 ・節分会 など

なかま一人ひとりが主役となれる誕生会では、午前中にクイズゲームや主 役に関わる時代の出来事などを紹介したり、午後からは音楽を聴きながらゆったりとした時間の中でケーキを食べるなど、一日を通してお祝いすることが出来た。

また、今年度は通所する40歳以上の4名のなかまの大きな節目として、施設初のW成人式を行い皆でお祝いをする事ができて良かった。保護者から幼少時代の写真をお借りしてのスライドショーでは、初めて見るなかまの幼少時の様子や元気な姿から、改めて親御さんの思いを再認識し、その人の人生の歩みを垣間見ることができた。同時に、あじさいの家のなかまと一緒にお祝いが出来たことは大きな意味があった。

今後も体調に留意しながら無理をせず、なかま一人ひとりが楽しく行事に参加できるように取り組んでいきたい。

◎交流

今年度も沢山の交流の機会がもてた。多くの人との出会いがあり、社会参加にもつながった。様々な所へ出掛けて行つての交流は、準備や移動等特別な配慮が必要であるが、なかまにとって社会参加の意識が深まったり、いつもと違った環境でも対応出来るという自信となったと思われる。

今後の交流も、今まで築いてきた関わりを大切にし、新しい交流も積極的に行いたい。また、なかまの体調を第一に配慮し、なかまにとって励みや楽しみ、達成感が味わえる様に取り組んで行きたい。

◎実習

今年度も依頼のあった体験及び、実習は全て受け入れることが出来た。目的や年齢、立場等は様々ではあったが、あじさいの家の基本理念やなかまとの時間の過ごし方、思いは理解してもらえたと思う。

また、なかまや職員もよい刺激を受け、お互いに有意義な時間となった。

来年度も引き続き積極的に実習生を受け入れ、お互いにとってプラスになり意義のある時間となるよう実施したい。

◎安全・防災

安全点検においては、月初めに行うことが困難な月もあったが、定期的を実施す

ることができた。点検を行った人を明記することは、用紙を変更することで対処したが、いつも特定の人が点検を行うこととなってしまった。色々な職員が点検にかかわっていくことも必要ではないかという課題も残った。

今年度も11月と3月に避難訓練を実施した。1回目の避難訓練は、地震からの避難に引き続き火災が発生したという想定で行い、その後活動室において、なかまと職員で振り返りを行った。2回目は消防署の立会いの下、1回目同様地震と火災の避難訓練を行った。消防署の方の総評の中で、車椅子を引く場合、一人の職員が一度に2台引くことに対して、迅速な避難は大切であるが、まず安全で確実な避難の方が重要であると指導された。その後、消防署の方の指導の下、消火器訓練を行った。職員が中心の操作になったが、なかまも見学しながら一緒に学べるよい機会となった。また訓練終了後、消防自動車も見学させていただき、参加したみんなが防災意識が持てた訓練となった。今後も様々な事態に対応できるよう訓練を実施していきたい。

来年度も毎月の安全点検と年2回の避難訓練を行うと共に、短期入所事業開始に伴い、宿泊時に対応できる訓練も考えていきたい。

◎医務・健康

今年度もなかまの健康管理を中心に努め、例年の健康診察、インフルエンザ予防注射、体重測定を実施した。予防注射に関しては、囑託医の事情により桑原医師により実施された。

また、なかまの毎日の様子は、職員間での情報交換が定着し共通認識を持つことで、体調に考慮した無理のない活動が出来たと思う。

日々の生活の中で、発作を繰り返すなかまには、発作中に危険が無いように見守り、突発的な負傷などに対してはその都度の対応を考え安全に気をつけた。

今年度は入院したなかまが数名いたが、大事に至らず現在は元気に登所できている。しかし、今年はインフルエンザの大流行によりあじさいの家でも職員が数名、なかまが1名感染してしまったが感染が拡がらなかったことが幸いであった。今後も細心の注意をしていきたいと思う。

医療的ケアに関しては、注意内容を再確認する時間を持つことが出来た。今後も事故防止を含め安全に実施できるように気をつけていきたい。

また保護者との連携を取りながら、楽しく安全に活動に参加できるよう体調に応じた対応を心がけていきたいと思う。

◎研修

今年度も理学療法士の多田先生の訓練会を3回、特別支援学校の教諭である奥山先生による静的弛緩誘導法の訓練を4回、子ども心身発達医療センターの理学療法士である古川先生による訓練会を2回実施することが出来た。

多田先生の訓練会と奥山先生の訓練会はどちらも全員に共通して行える訓練法を教えてもらった。職員もなかまに実践しながらの訓練だったため全員で確認しながら進めていく事が出来た。古川先生にはなかま一人ひとりに合った訓練法を指導しても

らった。後日、指導してもらった訓練法をなかまと職員で確認する時間を設け、全体で訓練法を共有することで、有意義な訓練会にすることが出来たと思う。

その他の研修については、長野県で行われた「いいだ人形劇フェスティバル」、兵庫県で行われた「いたみフォーラム」など、県外での研修も積極的に参加することができた。休日に行われる外部の研修会にも出来る限り参加するなど、各自のスキルアップを図ることができた。

訓練にかかわる内容以外の施設内研修を行えなかった事が反省点として挙げられる。来年度は施設内研修の時間を設け、職員の技術の向上を図っていきたい。

【生活介護】

◎活動

基本理念に基づき、なかまが主体的に取り組める活動を目指した。

○ミーティング

今年度も週初めに行い、興味や関心、意欲をもっていろいろな行事や活動に参加できるように一週間の行事や活動を確認した。

また、なかまの休み中の様子などを知ることで、お互いを尊重し合い、関わりを深めたり思いを共有できる場ともなった。

今後も意見交換の場として有意義な時間となるように活用していきたい。

○訓練

なかまが毎日を健康で過ごせるよう、外部の先生から教えてもらった訓練法を活用して訓練を行った。子ども心身発達医療センターの理学療法士による訓練法は、なかま一人ひとりに合った内容だったため、後日職員やなかまに伝えることで訓練法を全体で共有することができた。支援学校の教諭による静的弛緩誘導法や多田先生による訓練は全員に共通して行える内容で、訓練の時間以外でも昼休憩時などに実施することができた。

職員の人数などの問題で一人ひとりにゆっくりと時間をかけて訓練を行えなかった事が反省として挙げられる。来年度は抽出訓練をするなどして工夫して実施していきたい。

○創作

今年度は主に玄関の壁面に「季節を感じられるもの作り」をテーマに活動を行った。夏は水をイメージしてなかま全員を水滴にみたてて玄関をにぎやかし、秋は落ち葉や木の実を使って玄関に秋を飾った。

新年を迎えて書いた書初めと一緒に今年の干支の猪や初日の出を作り玄関の壁面に飾った。また、毎年好評である年賀状を作成したり、以前から作成中の獅子舞は胴体部も完成し、だんだん形になってきている。

今後もなかまの意見を尊重し、素材そのものを味わい、作る過程を楽しみ、達成感を感じられるような創作活動を行っていきたい。

○音楽

今年度も週一回程実施し、なかま一人ひとりが自分のペースで音楽を楽しめる様に取り組んで来た。

内容としては、季節を感じられるような活動を意識し、その一つとして夏にはハワイアンを取り入れた。それに向けて、作りものや衣装等、雰囲気作りの過程も楽しむことが出来た。

また、合奏やゲーム的な要素を取り入れ身体を動かしたりもしたり誕生会においては、本人の生れてから今までの時代を振り返る様な曲をみんなで歌ったりしながら楽しんだ。

今後もリラックス出来る雰囲気の中、個性が発揮出来るような内容を考え、様々なジャンルの音楽に挑戦していきたい。

○身体

散歩、エアートランポリン、サイコロゲーム、双六
パラバルーン、ジェスチャーゲームなど

気候の良い時はなるべく外に出て、日光や風、花の香を楽しみ季節を感じる事が出来た。室内では楽しみながら体を動かしたり、心身ともに刺激を受ける事が出来る内容を工夫した。特にエアートランポリンや身体に触れる活動はリラックスにつながったと思う。

お楽しみレクと重なる内容も多いことから、来年度については内容及び、実施方法について検討していきたい。

○作業

今年度もクッキー作りを中心に行った。積極的に作業を進めるなかま、みんなの監督をするなかまなど、それぞれ自分のペースで活動に参加できた。またクッキー配達においては、体調などを考慮して行い、配達先で久しぶりの恩師との再会を果たし、会話を楽しむことができたなかまもいた。

今年度は親の会の方から、レスパイトでお世話になった菰野厚生病院の看護師さんなどに、クッキーをプレゼントするという事で注文をもらった。クッキーの袋にそれぞれメッセージの入ったシールを貼るなどして感謝の気持ちを込めた心温まるものを作成することが出来たことはすごく良かったと思う。

職員の人数の関係もあり活動開始時間が遅くなってしまうたり、なかまと一緒に材料の計量という作業をすることが出来なかった事が反省点として挙げられる。

来年度はなかまの体調に考慮した上で、クッキーだけでなくなかまと一緒に出来る活動を考えていく必要があると思う。

○人形劇

今年度は従来通りの地域の保育園での公演に加え、新たにいなべ市社協より依頼を受け“おれん家”カフェ”の催しをはじめ、交流や対外的行事として12回の公演を行った。

昨年同様、きらら学園の校外学習の場として来所した2クラスの後輩たちに人形劇公演を行い、お互いにとって良い交流ができた。また今年で2回目となる地域交流会での大安イオンの公演は、昨年度の経験から色々なPRを考え、たくさんの人に見てもらえるよう配慮した。午前・午後の2回公演を行うことで、多くの方に知ってもらえる良い機会となり、なかまの自信にもつながる活動となった。

舞台セットについては、新しく購入した機材を導入することで、設置時間や撤去時間の大幅な短縮を図ることができるようになった。

今後もなかまの社会参加を目的に、体調面や他のスケジュールなど色々な面に配慮しながら公演活動を行っていきたい。

○お楽しみレク

なかまのリクエストや季節に沿った活動の内容やゲームを取り入れ、お楽しみの時間としてきた。空いている時間を利用しての活動となる為、突発的な内容が多くなってしまった。しかし、職員とゆっくりコミュニケーションをとりながら内容を考えた事は娯楽的な活動だけでなく、なかまの個性が発揮出来、新たな発見もあった。決められた活動ではなく、いろいろな思いを考える時間を大切にすることが必要だと感じた。

○個別外出

今年度もなかまと保護者に希望の行き先などのアンケートを取り、それを基に行き先を決定し実施してきた。気候や行事などの兼ね合いや職員配置などの問題があり、日程調整が難しく実施期間が延びてしまっている事が反省に挙げられる。外出を終えたなかまについては、希望に添った内容のものを実施できた。また、普段とはひと味違う表情も見受けられたことや、他のなかまにお土産話などを披露し、なかま同士の交流もすることが出来た。外出することを目標に日々の活動の参加意欲も高まっていたように思う。

今後も有意義な活動に出来るよう、本人や保護者の希望を基に計画を立て、体調面に考慮しながら実施していきたい。

【日中一時支援】

今年度もニーズに基づき、入浴サービスを中心に週二回（月・水）を基本に行ってきた。入浴時は、なかまの身体状況を把握し、介助時に注意すべき事など、共通理解の重要性を感じた。入浴の支援は、現在日中一時を利用しているなかまだけでなく、今は利用していないなかまも、今後必要になってくることが予想出来るのでその対応も考えていく事が課題である。

また、休日、活動時間外等、緊急時の利用に関しては、日中一時支援で対応してきたが来年度より、短期入所が始まる予定であり、日中一時と平行して、幅広く迅速な対応が出来ると思われる。運営にあたっては職員体制をしっかりと整え、いつでも利用できる様にし、なかまや家族の不安解消を目指し、今後につなげて行く必要がある。

〈事務部〉

◎庶務

施設内の文書管理及び備品、消耗品等の管理を行った。係分担として庶務の業務を行ってきたが、内容については漠然としており、業務内容も多い。職員で係としての業務内容を確認しておく必要を感じた。

◎経理

施設会計及び法人本部会計等、すべての会計管理を行った。会計事務所の専門的なバックアップが受けられることは心強く、混乱なく会計管理を行うことができた。来年度はパソコンの整備時にクラウドを使えるようにするなど、経理をより確実かつ迅速に対応できるのではないかと思われる。

☆全体を通して

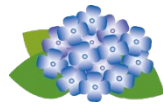
今年度も新規利用のなかまはなかったが、年度途中に1名のなかまが他の事業所を利用するため退所となった。また利用日数を減らすなかまも見られ、延べ利用日数は昨年度に比べ若干減少したが、大きな変化とならなかったことは幸いであった。

職員の体制はパート職員2名が昨年春より新規採用となった。また病休中の職員が、雇用体系を正規からパート職員と変更して復職し、前年度までの慌しさが若干緩和されたように見受けられる。しかし、日によっては職員の振替休日や、個々の都合で休みを取るなどやむ負えない場合や、なかまの急な予定の変更が生じ、支援にあたる職員が不足する事態もあった。今後の事業を展開していくうえでも、新規職員の採用も行っていくことは必要であると思われる。

今年度のなかまの活動状況を振り返ると、いろいろな活動を通して、経験や体験を行い、生活の幅を広げるという面では概ねできたと思われる。しかし、内容に関しては、なかまの動きとしては固定化された活動が多くなってきているように感じられる。特に施設外で行う活動に関しては、なかま一人ひとりのニーズが多様化してきていることもあり、以前のように臨機応変な活動は難しくなっている。来年度は今までの活動を振り返り、計画を立てる段階から、なかまにとって、より充実した活動が行えるよう見直すことも大切であると考えます。

日中一時支援事業においては、昨年度と同様に、休日の利用や利用時間の延長が必要な場合に対応した。なかまとその家族にも、日中一時支援事業の利用は定着してきているように見受けられる。また、今まで取り組んできた短期入所事業に関しては、いなべ市のサポートもあり、新年度からの開始に至った。来年度から、緊急時には24時間365日対応できるよう体制を整えて行きたい。なかまとその家族が、強い思いを持って取り組んできたことが、ようやく実を結んだ結果となり、今年度の締めくくりとなった。今後も歩みを止めることなく少しずつでも進んでいくことが、なかまとその家族がこの地域で安心して暮らせることであると思うので、引き続きみんなで取り組んでいきたい。

平成 30 年度



あじさいの家